平成 22 年 6 月

太宰府市議会環境厚生常任委員会
会議録

平成 22 年 6 月 10 日

福岡県太宰府市議会

1 議 事 日 程

〔平成22年太宰府市議会第2回（6月）定例会 環境厚生常任委員会〕

平成22年6月10日

午前10時

於 全員協議会室

- 日程第1 議案第50号 太宰府市附属機関設置に関する条例の一部を改正する条例について
日程第2 議案第51号 太宰府市女性センタールミナス条例の一部を改正する条例について
日程第3 議案第52号 太宰府市立老人福祉センター条例の一部を改正する条例について
日程第4 議案第53号 平成22年度太宰府市一般会計補正予算（第1号）について
日程第5 請願第3号 旧町名の復活を求める請願書
日程第6 意見書第5号 未就職新卒者の支援策実施を求める意見書

2 出席委員は次のとおりである（6名）

委員長	中 林 宗 樹 議員	副委員長	安 部 陽 議員
委員	不 老 光 幸 議員	委員	安 部 啓 治 議員
”	藤 井 雅 之 議員	”	禧 田 久 美 子 議員

3 欠席委員は次のとおりである

な し

4 太宰府市議会委員会条例第18条により説明のため出席した者の職氏名（10名）

市民生活部長	和 田 有 司	健康福祉部長	和 田 敏 信
市民課長	原 野 敏 彦	環境課長	篠 原 司
人権政策課長	蜷 川 二三雄	福祉課長	宮 原 仁
高齢者支援課長	古 野 洋 敏	国保年金課長	坂 口 進
子育て支援課長	原 田 治 親	保健センター所長	中 島 俊 二

5 職務のため委員会に出席した事務局職員の職氏名（3名）

議会事務局長	田 中 利 雄
議事課長	櫻 井 三 郎
書記	浅 井 武

開会 午前10時00分

~~~~~ ○ ~~~~~

○委員長（中林宗樹委員） 皆さん、おはようございます。

それでは、定足数に達しておりますので、これより環境厚生常任委員会を開会いたします。

日程につきましては、お手元に配付しているとおりです。

それでは、ただちに議案の審査に入ります。

~~~~~ ○ ~~~~~

日程第1 議案第50号太宰府市附属機関設置に関する条例の一部を改正する条例について

○委員長（中林宗樹委員） まず、お手元に配付しております日程表の日程第1、議案第50号「太宰府市附属機関の設置に関する条例の一部を改正する条例について」を議題とします。

それでは、執行部からの補足説明を求めます。

子育て支援課長。

○子育て支援課長（原田治親） 太宰府市附属機関の設置に関する条例の一部を改正する条例についてのご説明をいたします。

今回の条例の改正につきましては、平成22年3月に平成22年度から平成26年度までを計画期間として、次世代育成支援対策後期行動計画書を策定いたしました。

後期行動計画書の策定完了に伴い、調査・審議いただきました太宰府市次世代育成支援対策後期行動計画策定委員会を廃止するものでございます。

以上でございます。

○委員長（中林宗樹委員） 以上で説明は終わりました。

それでは、質疑を行います。質疑はありますか。

安部啓治委員。

○委員（安部啓治委員） 今の説明ですと、策定が終わったので委員会を解散すると受け止めたのですが、その後平成26年度以降については、再度その時期になったら、また委員会を立ち上げる可能性があるかと解釈しておいていいですか。

○委員長（中林宗樹委員） 子育て支援課長。

○子育て支援課長（原田治親） この次世代育成支援対策後期行動計画につきましては、国から求められた計画をしております。また5年後国のほうからそのような形の子ども支援についての計画書等の指示が出れば、その時点での策定をするような形になると思います。とりあえず、10カ年計画の後期行動計画という位置づけでございます。

○委員長（中林宗樹委員） ほかにありませんか。

なければ、これで質疑を終わります。

討論を行います。討論はありますか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（中林宗樹委員） これで討論を終わります。

採決を行います。

議案第50号「太宰府市附属機関の設置に関する条例の一部を改正する条例について」につきまして、原案のとおり可決することに賛成の方は挙手願います。

(全員挙手)

○委員長(中林宗樹委員) 全員挙手です。

したがいまして、議案第50号につきましては、原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

〈原案可決 賛成5名、反対0名 午前10時3分〉

~~~~~ ○ ~~~~~

日程第2 議案第51号 太宰府市女性センタールミナス条例の一部を改正する条例について

○委員長(中林宗樹委員) 日程第2、議案第51号「太宰府市女性センタールミナス条例の一部を改正する条例について」を、議題とします。

それでは、執行部からの補足説明を求めます。

人権政策課長。

○人権政策課長(蜷川二三雄) 議案第51号、太宰府市女性センタールミナス条例の一部を改正する条例についてご説明申し上げます。

議案書の70、71ページになります。

今回の改正は、太宰府市女性センタールミナスの管理を地方自治法第244条の2、第3項の規定により指定管理者に行っていたいておりますが、この場合の利用料金の納付、減免の取り扱い及び使用料につきまして関係規定の整備を行うものでございます。

条例改正新旧対照表の63ページをお願いいたします。

第12条第2項の改正は、減免を指定管理者が行う旨の読み替え規定、同条第3項の改正は、利用料金を指定管理者が定める旨の読み替え規定、第14条第1項に使用料を利用料金に読み替える規定、同条第2項に利用料金は指定管理者に納付しなければならない旨の読み替え規定の整備を行うものでございます。

以上でございます。よろしく願いいたします。

○委員長(中林宗樹委員) 以上で説明は終わりました。

それでは、質疑を行います。質疑はありますか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○委員長(中林宗樹委員) これで質疑を終わります。

討論を行います。討論はありますか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○委員長(中林宗樹委員) これで討論を終わります。

採決を行います。

議案第51号「太宰府市女性センタールミナス条例の一部を改正する条例について」につきまして、原案

のとおり可決することに賛成の方は挙手願います。

(全員挙手)

○委員長(中林宗樹委員) 全員挙手です。

したがいまして、議案第51号につきましては、原案のとおり可決すべきものと決定しました。

〈原案可決 賛成5名、反対0名 午前10時5分〉

~~~~~ ○ ~~~~~

日程第3 議案第52号 太宰府市立老人福祉センター条例の一部を改正する条例について

○委員長(中林宗樹委員) 日程第3、議案第52号「太宰府市立老人福祉センター条例の一部を改正する条例について」を議題とします。

それでは、執行部からの補足説明を求めます。

高齢者支援課長。

○高齢者支援課長(古野洋敏) 太宰府市立老人福祉センター条例の一部を改正する条例についてご説明申し上げます。

先ほどのルミナス条例と一緒にですけど、64ページの新旧対照表をお願いいたします。使用料につきましては、第8条これは、「別表のとおりとし」という部分を「別表のとおりとする」という形と、1項と2項に「使用料は前納しなければならぬ」という形で分けております。その関係で3項、4項が増えております。

2点目は、指定管理者による管理運営、第11条につきまして、先ほどと一緒に第8条第3項中「市長は」とあるのは指定管理者は市長が」とすると変えております。

利用料金、第13条につきましては、先ほどと一緒に、老人センターの管理運営を行わせる場合は、使用料とあるのは利用料金とする。それと2項に管理者に支払わなければならない。3項が管理者の収入とするという形で、市全般的な指定管理についての見直しをしたものでございます。

以上でございます。

○委員長(中林宗樹委員) 以上で説明は終わりました。

それでは、質疑を行います。質疑はありますか。

安部啓治委員

○委員(安部啓治委員) 改正案のほうを見てましたら、使用料という文言が何か所かあるのですが、全体的に使用料を利用料金と改めるというふうになっていっているのですが、使用料と利用料金の違いというか、これは利用料でなく使用料のまま行くということですか。

○委員長(中林宗樹委員) 高齢者支援課長。

○高齢者支援課長(古野洋敏) はい。そうです。

○委員長(中林宗樹委員) ちょっと待って下さい。使用料のままでいく・・・。

○委員(安部啓治委員) 使用料と書いているでしょ。これを全部利用料金に改めるのかどうかという質問です。

下のほうでは、「使用料とあるのは利用料金とする」という文言があるし、この辺の整合性がとれているのかという質問です。

○委員長（中林宗樹委員） 高齢者支援課長。

○高齢者支援課長（古野洋敏） 使用料と利用料金、使用料というのは、別表のとおり使用料を支払わなければならない。と。あと利用料金というのはそれまで収入になってきますよね、その後の表現で今までも使用料という表現と利用料金の収入という形で、旧の部分も改正案も使い分けとして、使用料の使い分けは、あくまでも別表のからみの部分の前納関係を表しまして、その後収入を得た後の部分について「利用料金とあるのは」という形で表現してあります。

これは、一応、法令審査会も検討した中での全国的なやり方ですので、ご理解いただきたいと思います。

○委員長（中林宗樹委員） ほかにありませんか。

なければ、これで質疑を終わります。

討論を行います。討論はありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（中林宗樹委員） これで討論を終わります。

採決を行います。

議案第52号「太宰府市立老人福祉センター条例の一部を改正する条例について」原案のとおり可決することに賛成の方は挙手願います。

（全員挙手）

○委員長（中林宗樹委員） 全員挙手です。

したがいまして、議案第52号につきましては、原案のとおり可決すべきものと決定しました。

〈原案可決 賛成5名、反対0名 午前10時9分〉

~~~~~ ○ ~~~~~

日程第4 議案第53号 平成22年度太宰府市一般会計補正予算（第1号）について

○委員長（中林宗樹委員） 日程第4、議案第53号「平成22年度太宰府市一般会計補正予算（第1号）について」の当委員会所管分を、議題とします。

お諮りします。審査の都合上、まず事項別明細の歳出から審査を行いますが、歳出の補足説明において、歳入が関連する部分を、同時に説明したほうがわかりやすい項目につきましては、歳入についても説明をお願いしたいと思います。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（中林宗樹委員） 異議なしと認め、歳出から審査を行い、執行部におかれましては、歳入に関連する部分を、同時に説明した方がわかりやすい項目については、歳出の中で歳入の説明をお願いいたします。

なお、歳出の説明の中で、歳入の説明に関する質疑がある場合は、歳出の質疑の際に、これを許可いたします。

それでは、補正予算書10から13ページの3款民生費、1項社会福祉費、2目、11目について、執行部の補足説明を求めます。

高齢者支援課長。

○高齢者支援課長（古野洋敏） 老人福祉費、在宅老人対策費の償還金利息及び割引料で、内訳といたしましては、ふくおかすみよか事業補助金精算返還金45万円でございます。

当初は7件程度見込んでおりましたが、実績としては4件の実績がありましたから、残の3件分を県に返還するものでございます。以上であります。

○委員長（中林宗樹委員） 11日、人権政策課長。

○人権政策課長（蜷川二三雄） 3款1項11目、人権センター費、南体育館関係費の13節委託料、耐震診断委託料348万5,000円についてご説明いたします。

市内の公共施設の耐震工事につきましては、学校など主要なところから順次行っております。このたび、内閣府における第三次地震防災緊急事業で、耐震工事に対して起債の優遇措置が受けられることで、第二次避難所として位置付けられております南体育館の耐震化事業を申請しておりましたところ、4月中旬に国の同意を得ましたので、今回の補正におきまして耐震診断料を計上させていただくものであります。

なお、診断結果によりましては、工事費を12月補正にてお願いいたす予定でございます。

よろしく願いいたします。

○委員長（中林宗樹委員） 説明は終わりました。

それでは、質疑を行います。

禧田久美子委員。

○委員（禧田久美子委員） この診断にかかる工事期間というのは、どういうふうな予定を立てられているのでしょうか。

○委員長（中林宗樹委員） 人権政策課長。

○人権政策課長（蜷川二三雄） この耐震診断におきましては、今のところ1日程度で終わると聞いております。

なお、工事につきましては、耐震診断の結果によりまして、それを見ないと工事の状況等が出てこないというところでございます。

○委員長（中林宗樹委員） 藤井雅之委員。

○委員（藤井雅之委員） 同じく耐震診断の関係ですが、1日で350万円近くの金額ですね。これはちょっと高額なのかなという印象をもつのですが、何が高くなっているのか、要因があればご説明いただきたいのですが。

○委員長（中林宗樹委員） 人権政策課長。

○人権政策課長（蜷川二三雄） 実際現場で採取しますいろいろなもの、そういった現地での採取等にかかるのは1日程度と伺っておりますけれども、それに基づきます分析、技術料とかまとめるための費用、そういったもの一式でこの金額になっているということでございます。

○委員長（中林宗樹委員） 安部啓治委員。

○委員（安部啓治委員） 藤井雅之委員の関連ですが、この南体育館は、10款の教育委員会の体育センターよりも100万円ぐらいたくはなっているのですが、元々どういう基準があって、調べられて…、これは入札か何かされたのですか。方法は。先ほど言ったようにこの金額は妥当だという何か比較

するものがあつたのでしょうか。

○委員長（中林宗樹委員） 人権政策課長。

○人権政策課長（蜷川二三雄） 現段階では、南体育館の耐震診断の見積を取りまして、その見積額によって補正のお願いをさせていただいているところです。なお、この耐震診断の基準と言いますか、努力目標として1,000㎡以上と1,000㎡以下によっては若干ニュアンスが違いますけれども、先ほど申し上げたとおり、南体育館も第二次避難所として指定をしております関係で、1,000㎡以下ではございますけれども、このたび申請をされていて、それに同意をいただいたという状況でございます。

○委員長（中林宗樹委員） ほかにございませんか。

次に、補正予算書12、13ページの3款、2項児童福祉費、1目児童福祉総務費について補足説明を求めます。

子育て支援課長。

○子育て支援課長（原田治親） 3款、2項、1目児童福祉総務費についてご説明させていただきます。

これは国の緊急雇用創出事業臨時特例基金事業によるもので、次世代育成支援対策後期行動計画の平成23年度実施計画策定作業や子育てハンドブックの更新作業等事務補佐として臨時職員を雇用するものでございます。

これに関連しまして、歳入がございます。8ページをお願いいたします。

15款2項県補助金3目労働費県補助金の緊急雇用創出事業臨時特例基金事業補助金でございます。ここに623万4,000円という数字が出ておりますが、この内の歳出と同額の82万7,000円を追加補正させていただくものでございます。以上です。

○委員長（中林宗樹委員） 説明は終わりました。

それでは、委員からの質疑を許可いたします。

質疑はありませんか。

藤井雅之委員。

○委員（藤井雅之委員） 臨時職員はどれぐらいの期間雇用されるのかということが一点と、あと関連で今説明がありました、ハンドブック作成ですね、大体何冊ぐらい作成されてどういうふうにご利用しようと思われているのか、答弁願います。

○委員長（中林宗樹委員） 子育て支援課長。

○子育て支援課長（原田治親） 期間でございますが、6カ月、半年を予定しております。

子育てハンドブックにつきましては、このような形で子育て支援課のほうから発行させていただいております。これは、当初つくりまして、いろいろ年を経るにしたがいまして新しく情報が入りますので、そこに入力をして、今切り貼りをして、500部ほど残っておりますので、その作業の部分にしております。ただ、今回県の補助金関係で、まだ後になると思いますが、9月補正等で補助金をもちまして、印刷製本費を取り込むことができるかもしれませんので、その辺については、部数はまたそれから増えるものと見込んでおります。以上です。

○委員長（中林宗樹委員） 禰田久美子委員。

○委員（綾田久美子委員） 今の関連なのですが、普通ハンドブックというのは手に入るぐらいの大き
さと思いますが、それはA4判でつくられる予定でしょうか。

○委員長（中林宗樹委員） 子育て支援課長。

○子育て支援課長（原田治親） 現在のところA4判で予定しております。意外と好評でございますの
で、いろんな分野でお示しさせていただいておりますので、形としては、この形を予定しておりま
す。

○委員長（中林宗樹委員） ほかにありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（中林宗樹委員） 以上で歳出を終わります。

それでは、歳入ですが、先ほど歳出で説明していただきましたが、それ以外に、執行部の方から補足説
明がありましたらお願いいたします。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（中林宗樹委員） ないようですので、以上で、歳入を終わります。

それでは、歳入、歳出、その他全般につきまして、質疑を行います。

質疑はありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（中林宗樹委員） それでは、私のほうからひとつだけお尋ねしたいのですが、3款1項11目の南体
育館の分で耐震診断委託料ですが、これについて、これ県のほうから同意をいただいたということと理解し
ておりますが、これについては、財源が一般財源ということではあります、これ県とか国からの補助金は
ないのでしょうか。

人権政策課長。

○人権政策課長（蜷川二三雄） 耐震診断についてはございません。

診断の結果、必要な工事が出てきたときの耐震工事について、起債の優遇措置が受けられるというもの
でございます。

○委員長（中林宗樹委員） 以上で、説明・質疑は、すべて終わりました。

これから討論を行います。

討論はありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（中林宗樹委員） これで討論を終わります。

採決を行います。

議案第53号「平成22年度太宰府市一般会計補正予算(第1号)について」の当委員会所管分につきま
して、原案のとおり可決することに賛成の方は挙手願います。

（全員挙手）

○委員長（中林宗樹委員） 全員挙手です。

したがいまして、議案第53号の当委員会所管分につきましては、原案のとおり可決すべきものと決定しま

した。

〈原案可決 賛成5名、反対0名 午前10時22分〉

~~~~~ ○ ~~~~~

日程第5 請願第3号 旧町名の復活を求める請願書

○委員長（中林宗樹委員） 日程第5、請願第3号「旧町名の復活を求める請願書」を議題といたします。

本請願の協議に入ります前に、本請願の紹介議員となっています安部陽委員がいらっしゃいますので、何か補足があればお願いします。

安部 陽 委員。

○委員（安部 陽委員） 一応皆さん、幸いにして、「住みよい太宰府をつくろうかい」からも、こういう旧町名の復活を望むということで、これによってある程度経過がわかるだろうと思います。一応太宰府というのは歴史でもって進んできておると。この歴史を失くしたら太宰府というものはほとんど皆無に等しいと言ってもいいぐらいの、それだけ値打ちのある歴史です。

なぜ再度こういう問題が出てきたかという、この太宰府の三条、連歌屋、馬場、大町、新町、五条、この6町については、この太宰府というのは天満宮を中心にして発展してきたと思われま。この6町でもって、全国的に知られております「鬼すべ」、これはNHKでも全国放送されたりして、もうPR代がいらぬぐらいそういうふうで全国版で放送されている。それからお祭り、それで、今たとえば「鬼すべ」にしましても、三条、連歌屋そういう地名を使っただけ、それからちようちん、大町だとか、そういうものが使われてきておるわけですね。行政名は宰府というふうになっていますので、分かりにくいんです。どこからどこまでが三条、大町、連歌屋というぐあいで、その区切りも分からない。それから案内しようにも案内がしにくいと。とくに太宰府には歴史を訪ねてこられるお客さんが多いわけですね。連歌屋と地名がついてますけどどういふところですかと言われてもそれは今宰府三丁目と一丁目ですかね、二丁目かなんか、そういうふうで両方にまたがって分からないんですよ、道を挟んでね。そういうことで史跡解説員の方も場所もなかなか分かりにくいと、説明しにくいというのも出てきております。

それで、一番大きな問題は、大宰府政庁があって、そして1,300年からの歴史をもっていると、これが大きな要素として博物館の誘致運動に拍車をかけたと思われま。本当に九州に一つと言え、中心になるのは熊本ぐらいになるのですよ。だけどもなぜ太宰府に落ちついたかという、太宰府にはそういう歴史があるから、そういう博物館も太宰府に収まったということです。そういう大きな観点から皆さんは審議していただいて、この三条、連歌屋、馬場、大町、新町これ五町のみが、とくに馬場、大町、新町は完全にそういう地名もないような状態ですね。この連歌屋、三条は曲がりなりにも御笠川を境にして山手のほうについたというだけです。これは苦肉の策です。まあそういうことですね。それで分かりやすい地名にしようと思えば、例題にだされるのが、ここの白川。白川は何番何号。現在残されている宰府一丁目、二丁目とかは、そういうところは、そういうふうに分けることによって、今100件内外の区域になった。その区域の三条、連歌屋、馬場それで五、

六百件ぐらいになると思いますけれども、そこによって天満宮のいろんな行事もできていると。そういうものを含めてみなさんのご検討をお願いしたいと思うんです。私これ平成19年の12月議会で質問したんですね。この町名復活について。しかしながら、この町名をつけたのは、太宰府市が強引につけたということですよ。昭和63年の町名変更のときに担当課長は何と言ったか。あの馬場、あそこは通称「いんのばば」とか言いますが、「あそこには犬の糞がたくさんあったから『いんのばば』と言おう」と、そういうことを言われたから、あそこの世話人から集まった人たちやら全部が「そんなに汚い地名やったら、やめてしまえ」と言って、あそこが一番に壊されたという経過があるのですよ。そういうような行政指導によって、これが変えられたということは本当に残念でたまらん。今の市長は、この12月議会の答弁のときに「旧町名を残すことについての意義についても、安部議員の考え方あるいはご意見等についてもそのとおりだというように思います」と、そういうふうに回答しております。それで、そういうふうで行政がこれを行っているから行政からは言い出しにくいわけです。それで議員の皆さんがよく歴史等を踏まえて、慎重の審議を元に市長がどこに行っても太宰府は歴史と文化のまちでございまして、堂々と言えるような、その町名あるいは歴史を皆さんも物語っていただきたいと思います。以上です。

○委員長（中林宗樹委員） ありがとうございます。

それでは、ただ今から、協議に入ります。

委員の皆さんから ご意見は ありませんか。

禧田久美子委員。

○委員（綾田久美子委員） 今、安部陽委員の思いは聞かせてもらいました。

質問なんです、昭和63年4月1日に住居表示の実施が行われたと思います。

私は新人でございますので勉強させていただきましたけれども、執行部のほうから分かれる紹介議員の代表である安部陽委員のほうから内容を説明していただきたいと思いますけれども。

○委員長（中林宗樹委員） これにつきましては、正確を期しますので執行部のほうからご説明をお願いします。

市民課長。

○市民課長（原野敏彦） 今、昭和63年の実施の現状と言われましたけれども、まず訂正があるのですが、4月1日と言われましたが実際の実施は3月1日になっていきますので、よろしくお願いいたします。

そのときの状況なのですが、住居表示を実施するには地方自治法第260条の規定によりまして、議会の議決を経て県知事に届け出ると、そのようになっています。また、住居表示に関する法律によりまして、議会に提案する案については、30日間告示したあとで提案ということになっています。それで昭和62年12月18日から昭和63年1月16日まで案を公示しております。最終日の1月16日に実施区域と町名の変更請求ですね、当時の行政区単位での区域と町名をお願いしますというような変更請求が出されました。それで、1月25日には変更請求書を添えて議案を出しております。それは市議会の第1回臨時会ということで、その議会に出ささせていただいております。委員会では、当時は都市計画課のほうで所管でしたので建設経済常任委員会のほうに附託されております。それで、2月6日には住居表示に関する法律の中で、議案を議決する

場合は公聴会を開いて意見を聞いたあとで議決をしないというふうになっておりますので、2月6日に公聴会を開いて反対意見、賛成意見それぞれ出されております。2月8日、9日の2日間にわたりまして建設経済常任委員会がありまして、最終的には全員一致で原案可決されたと。2月12日の市議会第1回臨時会の最終日に委員会の報告がありまして、原案可決されたという流れになっています。それで昭和63年3月1日に住居表示が実施されたと。以上でございます。

○委員長（中林宗樹委員） 議会の流れはわかりましたけれども、ある程度中身についてご説明できる分だけでも説明していただけますでしょうか。委員長報告とかそこらへん…。

（安部啓治委員「委員長、合わせていいでしょうか」と呼ぶ。）

○委員長（中林宗樹委員） 安部啓治委員。

○委員（安部啓治委員） 委員長の質問に合わせてですね、議決に関して反対が何名ぐらいあったか、あった場合は討論とかあっているでしょうかから、その内容まで一緒にお願いしたいのですが。

○委員長（中林宗樹委員） 市民課長。

○市民課長（原野敏彦） さきほど言いましたように、委員会では全員一致で可決されております。本会議では人数は書いてないのですが、大多数ということで表示されてますので全員賛成ではなかったかなと思います。

○委員長（中林宗樹委員） ちょっと事務局のほうから。

浅井書記。

○事務局（浅井 武書記） 会議録によりますと、17対2で原案可決ということになっています。

○委員長（中林宗樹委員） 市民課長。

○市民課長（原野敏彦） それから、委員会等の中身ということをおっしゃいましたが、私のほうで調べた中ではですね、第1回臨時会の会議録から確認させていただいているわけですが、その中で、まず反対意見ですね、区域の変更と町名の変更と2つの変更請求が出されております。区域の変更についての反対意見といたしましては、「住民説明会には参加者は少なく、周知徹底がなされておらず、住民の意思がまったく聞かれていない」、「現在の行政区を基本に区名をそのまま町名にしたらよい」と出されております。

区域の変更についての賛成意見については、「現番地は飛び番地となっており、住居表示の必要性を感じている。平成61年度馬場区の一部が石坂に分断されるということでもいろいろ心配したが、区の催し、天満宮祭典行事、公民館活動と以前とまったく変わらない」等でありました。

名称の変更についての反対意見を集約いたしましたら、「宰府という名称は、旧6町の名称と比べると歴史的な価値が違う。福岡市の中島町、下川端のように面積、戸数が少なくとも由緒ある名称は残されている。地名は貴重な文化財であり、他市の保存の動きと逆行している。住民投票などの方法で賛否を問うべきだ」という意見があっているみたいです。

また、賛成意見では、関係6区の代表委員が区役員、区民などと長時間慎重に検討され、6区合意の上で宰府という名称を提起したものである。旧6町の名前は捨てがたいが、行政区名で残し、住居表示と行政区は基本的に違うことを認識している。宰府という名称は、康和2年、西暦1100年平安時代当時から旧6町を宰府と呼んでおり由緒ある名前である。また、住居表示することで大変便利になり、早く実施すべきだ

というような双方の意見が出ております。

その意見に基づいて委員会が開かれまして、全員一致で原案可決されたわけなのですが、委員会の中では、各区の新旧役員、隣組長に対する説明会を2回、ですから合計10回ですか。6区の合同役員会、これ合同役員会というのは住居表示を実施するときに町名とか区域とかを地元の代表に検討していただくというような形で、区長さんのほか2名の役員さんを行政区のからあててもらっています。その6区の合同ですから、18名の方の合同役員会になっていますけれども、その分が9回、住民説明会を6回、それからパンフレット等をお配りしたということになっております。

今回の住居表示に伴って、町界町名の変更になるが、行政区と住居表示による新しい町区域とは別個のものであり、住居表示により町名が変更されても行政区は現在のままであり変更はあり得ないということですね。それからまた、関係区長とは行政区の区界を変更しないというような「覚書」を取り交わすことも合意されているということもありました。

ということから、委員会としては全会一致で原案可決ということになっていると思います。

以上です。

○委員長（中林宗樹委員） 安部陽委員。

○委員（安部 陽委員） 今当局のあれを聞いていておかしいのは、昔から6町が宰府と呼ばれていたと。これは「宰府参り」があっていたということです。その宰府を取ったということですよ。宰府ということと呼ばれていたのではないということで修正しておきます。それが一つと、当時の議員さんに各戸あつたんですよ。それしたら、「安部さん、町名変更ってそげなふうになるとな」っていう言葉しか返ってこなかったんですよ。それだけ当時の議員さんはそういう町名のあり方について、しっかりと勉強しなかったというとおかしいけれど、調べてなかったということですよ。そういうような状態で可決されたというのが現状です。私がずっと回ったんです。

○委員長（中林宗樹委員） はい、今宰府の問題が出てきますけど、執行部のほうから当時の会議録をお読みになった部分でございますので、別に執行部のほうからこれだと。まあこれについては後に会議録の中についておりますけども、宰府というものは歴史的に継承されるものではないということも書いてありますので、宰府という名前については、あんまり歴史的なものについては確証がないというようなことで、会議録を読みますと、そういうふうになっておりますので、その辺はご理解いただきたいと思います。

まあ、宰府参りとかそういう話は昔からあるのはありましたので、何らかの歴史的なものはあると思いますけど、ここで検証するまでは時間もありませんので、その分については置いて話を進めていただきたいと思います。

藤井雅之委員。

○委員（藤井雅之委員） まず、安部陽委員からの資料は出てるのが分かるのですが、もう1枚地図の資料を置いてあるのですが、これはいったいどこから出ているのかだけ。

○委員長（中林宗樹委員） それでは資料についてご説明します。地図については安部啓治委員から今回の審議についてということで出されております。それと安部陽委員から視察に伴う事前質問に対する回答ということで資料として出されておりますのでよろしいですか。

安部啓治委員。

○委員（安部啓治委員） 安部陽委員の資料の4番目ですけど、これは長崎市の資料ですね。執行部に聞きたいんですけども、予算をどういうふうにくくるかという部分もあるでしょうが、私はこういう安い予算でできるような気がしないのだけでも、その辺何か試算ができるのであれば、太宰府市としての見解というか、予算もいろいろあるでしょうから目に見えない予算もあるしですね、ちょっと表現しにくいのですが、お願いします。

○委員長（中林宗樹委員） 市民課長。

○市民課長（原野敏彦） 一応、請願の趣旨は、自治会単位で町名と町界を区切ってほしいというようなことと私は理解したのですが、そこでするとしたら、これが関係する行政区というのが、今言われている五条、連歌屋、三条、馬場、大町、新町ですね。すべて入ってきて今の三条一丁目から三丁目、連歌屋一丁目から三丁目、もちろん幸府一丁目から五丁目すべて含んで見直しが出てくるのではないかと考えております。

仮にそうした場合、一応これは当時の業務委託の分の金額なんですけど、業務委託としましては、住居表示台帳を作成するための出入り口調査とか、法人の調査とか、個別調査それから地番調書、住居表示の台帳作成、案内図作成、文書等の配布、表示板の作成から貼付という形でそういった業務を委託するわけですが、それが当時の決算書を見まして、第4次五条1丁目と石坂1丁目、これは馬場とか新町、五条が入った分ですが、その分が485万円。第5次これも新町、大町、馬場、連歌屋、三条、五条の一部、幸府一丁目から五丁目の分なんですけども、これが515万8,000円。第6次これは松川、三条、連歌屋、大町、白川、五条の一部の分、これが三条一丁目から三丁目と連歌屋一丁目から三丁目の分です。それと白川の分。これが510万円。これが委託費としてかかっております。

これがすべて同じようにかかるというわけではないということは、業者のほうにも確認いたしましたら、住居表示台帳は基本の分はできているから、そこまでかからないにしても3分の1から2分の1ぐらいはかかるのではないかとことを言われてました。

それから住居表示の案内板を大体一丁目ごとに1台付けております。その分を見直しましたら全て変更しますと15台必要になってきます。今年の予算では1基あたり41万2,000円を見込んで予算を計上いたしておりますけれども、15台分で618万円。合計の委託料はわからないのですが、当時の委託費でみますと2,695万3,000円というふうになっております。

以上です。

○委員長（中林宗樹委員） 藤井雅之委員。

○委員（藤井雅之委員） 安部陽委員に質問なんですけども、長崎市と金沢市にも視察に行かれているということでいろいろ出していただいていますけど、資料のどこにあてはまるのか分からないのですが、関連あるとしたら5番の住民負担のところになるのかもしれませんが、住所の変更によって根本的にいろいろ変わってしまうのですが、郵便番号の変更等が長崎市ではどれぐらいあったのかということと、あるいは変更の手続きですね日本郵便との対応は誰がされたのか、職員がされたのか、どれぐらいの期間かかったのかもしそういったところまで聞かれておられれば追加で説明いただきたいのですが。

○委員長（中林宗樹委員） 安部陽委員。

○委員（安部 陽委員） 今郵便番号だとかそういうことを聞かれましたけども、これについては聞いておりません。

ただ、ここで皆さん間違えてあるのが、現在御笠川で区切られておりますね。そして、今回お願いするところは新町、あそこのお寺さんがありますね、新町のお寺さんが。あれからずっと道を切って真っ直ぐ上に上がって、こちら左のほうはずっと大町だとかそういうところに出てきますよね。それで御笠川からこっちですよ全部。山手のほうは今言われますように白川ができたり、連歌屋一丁目、二丁目、三丁目というようなふうでできて三条一丁目、二丁目、三丁目。そういうのは扱わないのです。今度扱いたいと請願で出ているところは、まあ新宅と本宅ってよく言いますが、本当の本宅のほうがこの宰府になってしまっているんです。それで三条の場合でも御笠川からこちらですから内山道のほうになるんですよ。御笠川から向こうは三条一、二丁目と区切られていますから、そういうところを扱うのではなくて、この本当に天満宮の行事に携わってあるところが三条の場合は確か宰府三丁目と四丁目あるいは五丁目がそういう人たちが天満宮の行事に入っている。それから連歌屋でも三丁目と四丁目ですかね、道路で分けてますからね、右と左と。それで四丁目も入ったりしてきていると思うのですよ。そういうふうで、分かりやすく言えば天満宮の行事をしやすいような区域が全部宰府何丁目になっているということです。本当に氏子としてやってある皆さんのところが宰府ですよ。それで堂々と天満宮の「鬼すべ」なんかは連歌屋の「連」の字をつくったり、「三条」と書いたりして、そういうのが結局今便宜的に自治会長さんの名前は三条、連歌屋で、だけど自治会長さんが住んでいるところは宰府ですよ。全然三条という名前はないんですよ。一字も。そういう矛盾点があるのですよ。行政との。連歌屋でも私たちの山奥のほうが連歌屋であって、本当の本道のところは宰府の三丁目あるいは四丁目。何かそういうふうです。馬場にいたっては全然ありません。新町も大町もないんですよ。そういう行政と町名が矛盾したところで歩いてきて、「いや、そのうち忘れられますよ」と。今度は忘れられてしまったら、子孫の、今から育ててこられる、昔連歌屋ってあったんですがどういうところですかと言われても、「さあ、それはどこでしょうか」と。連歌師がどうこうと、連歌師があそこで歌をつくって天満宮に奉納していたから、そういう文化の今度は復活やらのときには、全然そういうものが閉ざされてしまったままに来るということです。こういう大きな問題を抱えているのがこの6町、今度復活しようとする5町が大きな問題点です。それと道を挟んで三丁目と四丁目に分かれてから、将来的には、「もう三丁目の人が役員をしよんなあちゃけんそっちでしなさい」と、「おれたちはもうかたらんばい」というごたあふうな、そういうコミュニケーションも薄らいでくようになります。今のうちにしっかりと地名を元にもどして向かいと一緒に三条なら三条、連歌屋なら連歌屋って、向こうもこっちも連歌屋は連歌屋と呼べるような、それから馬場は馬場で皆が、よし今度は皆で行こうというごたあふうに、そういうコミュニケーションまで考えたところで検討してもらわないと、何かおかしな方向に行っていると思うのですよね。

○委員長（中林宗樹委員） はい、安部陽委員は自分の思いをいろいろとおっしゃってます。

ほかに、はい、禧田久美子委員。

○委員（禧田久美子委員） 今回、旧町名の復活を求める請願ということなので、昭和63年3月1日の分は6町による変更だと思えます。で、今回は5町に対しての請願。そこに昭和63年3月1日の分

と今回の分を1町足りないというところの問題、それと地名というのはやはり歴史を知るために、先ほどから安部陽委員がいわれますとおり、地名というのは本当に重要な手掛かりだと思っております。それについて町名が変わるということではなくて、一部町名が宰府何丁目から元の名前に戻してほしいと、一部の住民の意見だと思います。先ほど執行部のほうからもきちんとした説明がございましたけれども、本当に経費がどれだけかかるかということをお聞かせいただくとおもいますけれども、今回また変えることによってその分が人件費の無駄もあるし、本当にこれをまた改めて町名を復活することによってどれだけのというのは今説明があったように、かかると思います。また、今まで22年間何も問題がなかったのに、急にこういう話 came こと自体が自分としては納得できない部分というのがございます。それで、署名の件もこの請願書によりますと、283名の方の署名をいただいておりますけれども、それ以外の住民は何人いらっしゃるのか、それと署名をもらったのが1,000人以上おられると思います。その1,000人以上の283名というのが何分の1になっているのか、そここのところのきちんとした自治会長とか住民の意見も何か私のところに届いていないもので、その分をちょっと説明していただけますでしょうか。

○委員長（中林宗樹委員） はい、今の中で行政のほうにお尋ねしたいのですが、この5地区の世帯数と人口が分かれば、それだけ報告いただけませんか。

市民課長。

○市民課長（原野敏彦） 行政区の世帯数と人口なんですが、三条区が902世帯、人口は1,966人。連歌屋区が532世帯、人口は1,256人。馬場区は558世帯、人口は1,177人、大町区89世帯、人口は167人。新町区170世帯、人口は392人で5区の合計世帯数は2,251世帯、人口は4,958人となっております。以上です。

○委員長（中林宗樹委員） ありがとうございます。

安部陽委員。

○委員（安部 陽委員） これはですね、今言われたのは、山手のほうの世帯数も全部入っているのですよね。連歌屋とかいったらね。私はそっちのほうは今回の場合は該当はしないと言ったらおかしいけど、そっちのほうは抜けといて、本当のお宮の行事とかいろいろなものに携わってあるところの人口でないと、またそういう関係でないと、住居表示の場合は本当は担当課で言われるように、そこからの50人でいいのですよ変更なんかね。住居表示50人以上のね、その該当地区からのあれがあれば。そしたら今言われる公聴会を開いてどうこうと。だけど公聴会を開いたり無駄な経費を省くために請願として上がってきたというようなこと。というのが、公聴会を開いたって賛成3名反対3名という形式的ですよ。早く言えば。あとは決定するのは議員ですから。そういうところの問題がありますから。それで区域をね、もう少しきちっとね、私の説明も悪かったと思います。区域がそうふうで狭められてくるから三条あたりも150かそこそこ、連歌屋は100そこそこといったふうになってくるんです。

○委員長（中林宗樹委員） 市民課長。

○市民課長（原野敏彦） 今の連歌屋とか川のこちらのほうのことを安部陽委員が言われましたので、宰府一丁目から五丁目の世帯数と人口でございますかね。その分は出しておるのですけど、

幸府一丁目から五丁目までの世帯数は1,204世帯、人口は2,779人となっております。

○委員長（中林宗樹委員） ここで11時15分まで休憩いたします。

休憩 午前10時59分

~~~~~ ○ ~~~~~

再開 午前11時13分

○委員長（中林宗樹委員） 時間前ですが、皆さんお揃いなので、休憩前に引き続き再開いたします。

ほかにご意見ございませんか。

禧田久美子委員。

○委員（禧田久美子委員） 先ほど質問したんですけども、各自治会長さんの声というのが上がってきてないのですが、自治会長さんのほうとしてはどういうふうになっているのかをお聞きしたいのですが。

○委員長（中林宗樹委員） 安部陽委員。

○委員（安部 陽委員） 自治会長というのは今年の4月に入ってですよね、できたのが。だけこの運動というのはそれ以前からでておりましたので、本会議でも提案理由として申し上げましたように区長は市からの報酬をいただいていたと、それで市の委任性務でやってきておるから、そういうことについてはタッチできないということで終わってきております。もう自治会の皆さん大体名簿書いてあったですかね、まだそういうような状態ですから、私のところあたりの自治会のほうには、話しましたところ、こういう問題がありますということで例題として先だって説明したとおりでございます。

それから、予算の問題を先ほど市民課長さんがいくらいくらと言われましたけれども、これは大きな範囲のあれです。それで長崎市の場合、自分たちで費用がないからこういうふうでやった結果、73万円を支出しておりますと、平成16年度と17年度です。それで自分たちで表示板とかも作って設置して行きましたということですよ。

で、やはり私常に職員の皆さんが…。

○委員長（中林宗樹委員） ちょっとすみません。その分はさっき終わってますので、今の質問には入りませんので、また次の機会をお願いします。一応そこに書いてありますので、皆さんしっかり読んでいただきたいと思えます。

それでは議事進行いたします。ほかにありませんか。

それでは私のほうから、一、二質問させていただきます。

まず、長崎市のほうでされてます、それと今回の請願について住民の総意ということで長崎市、金沢市についてもありましたけれども、この住民の総意ということで今自治会長さんについては、前は区長さんで市の特別公務員ということで声をかけてないということですが、ほかの方の住民の総意ということについてはどのように考えているのか。

それからもう一つ、今現在行政区名としてはそれぞれ残っております。住居表示として幸府一丁目二丁目となっておりますけども、行政区名として残っているということで、そこら辺の見解をお伺いしたいと思います。

安部陽委員。

○委員（安部 陽委員） 自治会あるいは住民の意見というのは、これは住民は絶対100%賛成というのはないんですよ。しかしながら、やはり歴史を重んじ本当に太宰府を愛する人たちは、たまたま私がずっと歩いていたら、「いつ旧町名に戻してくれるのですか」と、「私はこれが直らんと死なれん」と言ってから二人ぐらい聞いたんですよ。そういうことで、それが発端でそういうことになったんですが。それから自治会については今後まだ市のほうでも総会的なあれがあってないのではなかろうかと思えますけど、そういう状態ですから言っておりません。

行政区名で残っているのではないかと、あれがちょっとおかしいのですよね。町名は宰府一丁目から五丁目。ただ行政区名で残っておると言っただけでも、本当に住んである人たちは宰府の一丁目から五丁目までの中の人ですよ。そういう町名でなくて、ちょっとそこに矛盾点を感じるんですよ。そういうふうな矛盾点を感じながら、それで、よその金沢市でも長崎市でも旧町名が復活しているというのは、できるからやっているんですよ。歴史を持っているから、それを取り戻そうとしてあるんですよ。その歴史を取り戻すために町民の方もそういうふうで署名をさせていただいているということです。全員一軒一軒回ったりではないんですこれは。あるところは回覧板で回してあるし、あるところは世話人の人が回ったり、いろいろです。ということで昼間はいらっしやらなかったりいろいろしますからね。

○委員長（中林宗樹委員） はい、以上です。

ほかにご意見がございませんか。

（安部 陽委員「ちょっと不老光幸委員の意見を聞いていただいたら」と呼ぶ）

○委員長（中林宗樹委員） 不老光幸委員、何かご意見はありますか。

○委員（不老光幸委員） まあ、いろいろと出ていますが、思いはいろいろありますけれども、言うのもどうかと思います。ちょっと立場上難しい問題もありますので、ただ一つは、これができたのが昭和63年。昭和63年にこういうふうになったときに、その当時住居表示を実施していたところがどこどこがあったのかお聞きしたいということと、それからやっぱり20年以上経ってまして、そういう話が出ているということも事実でありますので、全体的に少数意見ではあっても、こういう話があるということは無視できないのではないかという感じは持っております。

○委員長（中林宗樹委員） はい、ありがとうございました。

これで協議を終わります。討論を行います。

討論は ありませんか。

安部陽委員。

○委員（安部 陽委員） 私は賛成の立場から。

今までいろいろ皆さんの意見を聞いておりますけれども、どうも消極的な意見も多いような気もします。しかしながら、やはり太宰府というものが今後5年10年将来にわたって、子子孫孫まで、歴史を伝えるというのは、やっぱり私たちに与えられた責任ではなかろうかと思えます。用があれば天満宮にお願いすると、そういうこともありますし、やはり天満宮あつての太宰府という問題もあります。その点よく吟味していただいですね、この歴史を残すということで私はこれを皆さんのご賛同を得たいと思っております。

以上です。

○委員長（中林宗樹委員） ほかに討論は ありませんか。

禧田久美子委員。

○委員（総田久美子委員） 私はこういうふうな問題を時間もかけずにここで採決ということ言うのは、私ではきませんが、反対意見として言わせてもらいます。

国からの住居表示に関する法律が出ています。昭和37年の5月にですね。そういうふうに地方自治のほうは、法律が出た以上は住所を表示していかなければならないということについて、去年11月27日に大佐野、向佐野、吉松そういったところも改めて町名変更になったと思いますので、今回この5町だけということは、ほかの太宰府市全体を今回は見て、そこだけではないと思うんですよ。いろんな行政区が町名に引っかけられているところはたくさんあると思うんです。そういうようなもの踏まえてまた今度こういうようなことを変更する場合には、そういうふうな太宰府市全体を考えてしていただくということで、今回のこの請願につきましては、反対の立場で言わせていただきました。

○委員長（中林宗樹委員） 藤井雅之委員。

○委員（藤井雅之委員） 請願者とまた紹介者の安部陽委員の歴史・文化を大事にしていくというその趣旨は当然理解いたします。ただ、まず請願書の先ほども議論の経過にありましたけれども、住居表示が実施されたのが6町で実施されたけれども今回の請願には5町だけというような、その点の説明がまだ足りないというか、分からない部分も今回の請願の趣旨では明らかになっておりますし、また新たに町名変更を実施することによって発生しますコストあるいは郵便番号の新たな振り替え等による期間、それにかかる周知徹底とか、そういった部分の事務量の問題も懸念材料として感じておりますし、この地域だけの問題だけでなく禧田久美子委員の言われた部分と重複いたしますが、太宰府市全体で大きな課題になってくるのではないかということも感じますので、今回のこの請願につきましては私は反対を表明いたします。

○委員長（中林宗樹委員） 不老光幸委員。

○委員（不老光幸委員） 今度の4月に各行政区で役員さんの改選があったわけですけども、連歌屋区で連歌屋区の役員さんで届けを出した方が、実は三条区の人ですよというのを市のほうから指摘をされた。そして三条区では隣組長さんが輪番で回っていくんですけども、その方が三条区の隣組長に指名をされて、本人は三条区の住民になっているということを知らなくて、今までは連歌屋区のいろいろなことに参加していた。そして初めて組長だと指摘をされて、初めて自分は三条区のほうだったのかというような事例がありましてですね、これは町名の云々だけではなくて、やはりもう最初から住居表示をやりまして随分といろいろと経過がきているわけですね。行政区のあり方についても、いろいろと質問とかそういったことも出ておりまして、こういうことを一つの事例としまして、住居表示と行政区のあり方についても問題提起をされているということもありまして、私は地元として、今さら変更しなくてもという意見も非常に多いのも事実ですけども、問題提起の一つとして賛成の立場をとらせていただきたいと思います。と思っています。

○委員長（中林宗樹委員） 安部啓治委員。

○委員（安部啓治委員） 私の郷里は、加藤清正が参勤交代するときの領地がございまして、鉄砲町だとか西町だとかいろいろと由緒ある住所があったんですけども、区画整理で全面的に名称変更になりました。それで、安部陽委員の提案で賛成できる部分もあるんですけども、先ほどの署名が、283名ですか、宰府の人

口の概ね1割程度、それから提出資料の2番に推進母体についてとありますけれども、地域からの盛り上がりといいますか理事会を中心とした推進母体等がまったくできていないということ。まあ、歴史的な部分でいうと榎寺とか月見山これは代官所の跡があったところですけども、これ歴史的な地域が市内に点在しているわけですけども、そういう部分、市全体の今後派生するであろう影響を考えた場合に現況では非常に、推定ではありますけれども出てくるであろうというふうに考えておりますので、そういう理由から言いますと賛成しかねるという立場でございます。

○委員長（中林宗樹委員） 一応全員出ましたので、これで討論を終わります。

採決を行います。

請願第3号「旧町名の復活を求める請願書」を採択することに賛成の方は、挙手願います。

（少数挙手）

○委員長（中林宗樹委員） 少数挙手です。

したがって、請願第3号は、不採択すべきものと決定しました。

〈不採択 賛成2名、反対3名 午前11時34分〉

~~~~~ ○ ~~~~~

日程第7 意見書第5号 未就職新卒者の支援策実施を求める意見書

○委員長（中林宗樹委員） 日程第6、意見書第5号「未就職新卒者の支援策実施を求める意見書」を議題といたします。

本意見書につきましては、本会議におきまして、提出者の清水章一議員から提案の説明がありましたとおりでございます。

それでは、協議に入ります。

委員の皆さんからご意見はありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（中林宗樹委員） これで協議を終わります。

これから討論を行います。討論はありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（中林宗樹委員） これで討論を終わります。

採決を行います。意見書第5号「未就職新卒者の支援策実施を求める意見書」を、原案のとおり可決することに賛成の方は挙手願います。

（全員挙手）

○委員長（中林宗樹委員） 全員挙手です。

したがって、意見書第5号は、原案のとおり可決すべきものと決定しました。

〈原案可決 賛成5名、反対0名 午前11時35分〉

~~~~~ ○ ~~~~~

○委員長（中林宗樹委員） 以上で当委員会に審査付託されました案件の審査は全て終了いたしました。

ここで、お諮りします。

本会議における委員会の審査内容と結果の報告、及び閉会中の委員派遣承認要求書の提出につきましては、委員長に一任願いたいと思いますが、これにご異議はありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（中林宗樹委員） 異議なしと認め、委員会の審査内容と結果の報告、委員派遣承認要求書の提出につきましては、委員長に一任とすることに決定しました。

これをもちまして、環境厚生常任委員会を閉会いたします。

~~~~~ ○ ~~~~~

閉会 午後11時36分

太宰府市議会委員会条例第27条により、上記のとおり環境厚生常任委員会の会議次第を書記に記録させ、その内容が正確であることを証するため、ここに署名します。

平成22年 8月26日

環境厚生常任委員会 委員長 中 林 宗 樹